

			26年度観察数														観察 月数	観察 数合計
観察月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
観察日			8	13	10	8	18											
番号	科	名称	天気	晴	晴	曇	晴	晴										
1	カモ	カルカモ		1											1	1		
2	ハト	キジハト		2	2										2	4		
3	ウ	カワウ													0	0		
4	サキ	アオサキ													0	0		
5	サキ	ダイサキ	○												0	0		
6	カッウ	ツツリ	-												0	0		
7	トビ	トビ	○												0	0		
8	効	ツミ	VU												0	0		
9	効	ハイ効	VU												0	0		
10	効	オオタカ	VU												0	0		
11	効	ノスリ	VU												0	0		
12	キツツキ	コゲラ		1	3	1	1								4	6		
13	キツツキ	アカゲラ	○												0	0		
14	キツツキ	アオゲラ	○	1											1	1		
15	ハヤブサ	チョウゲンボウ	VU												0	0		
16	ハヤブサ	ハヤブサ	VU												0	0		
17	モズ	モズ	VU												0	0		
18	カラス	カケス													0	0		
19	カラス	オナガ	NT			1	7	6							3	14		
20	カラス	ハシボソガラス		3	2	4	4	7							5	20		
21	カラス	ハシブトガラス		7	7	7	5	21							5	47		
22	シジュウカラ	ヤマカラ	○	2											1	2		
23	シジュウカラ	シジュウカラ		6	11	7	5								4	29		
24	ツバメ	ツバメ			2	2									2	4		
25	ツバメ	イワツバメ	NT												0	0		
26	ヒヨドリ	ヒヨドリ		35	22	9	17								4	83		
27	ウグイス	ウグイス	○	4	2	2	4								4	12		
28	エナガ	エナガ				2									1	2		
29	メジロ	メジロ		1			6								2	7		
30	ムクドリ	ムクドリ			9	84	16								3	109		
31	ビタキ	シロハラ													0	0		
32	ビタキ	ツグミ													0	0		
33	ビタキ	ルビビタキ													0	0		
34	ビタキ	ジョウビタキ													0	0		
35	ビタキ	エゾビタキ													0	0		
36	ビタキ	コサビビタキ	VU												0	0		
37	ビタキ	キビタキ													0	0		
38	スズメ	スズメ													0	0		
39	セキレイ	キセキレイ													0	0		
40	セキレイ	ハクセキレイ													0	0		
41	アトリ	アトリ													0	0		
42	アトリ	カワラヒワ													0	0		
43	アトリ	シメ													0	0		
44	アトリ	イカル	NT												0	0		
45	ホオジロ	ホオジロ	NT												0	0		
46	ホオジロ	アオジ		2											1	2		
															0	0		
															0	0		
															0	0		
観察種数 月 / 年				11	10	10	9	3	0	0	0	0	0	0	0	16		



月	26年度コメント
4	早くも若葉が茂り、鳥が見にくい季節になった。今日はヒヨドリ・デーと言っていいほどヒヨドリが見られた。そのヒヨドリは柔らかそうな新芽を盛んに食べていた。アオゲラの鳴声が聞こえたが、姿はチラッとしか見えなかった。その後、木を突つつくドラミングの音がした。藪と藪の間的小径ではアオジが餌を啄んでいるのが見えた。ツグミ、シメなどの冬鳥は、既に帰ってしまったのか見られなかった。
5	シジュウカラ、ウグイス、ヒヨドリが囀り、追いかけあう姿が見られた。コゲラがケヤキの幹を上がったり下がったり、口には沢山の虫、まだ足りないと、懸命に探し回る姿が見られた。卵から孵化し、雛になり、餌やりに大忙しの親鳥と思われた。ヤブツバキの中にお椀型の巣があることを教わった。巣の材料がイネ科の枯草が多く使われており、高さが人の腰ぐらい、興味深かった。上空にツバメの翻る姿があった。
6	梅雨入りして朝のうち小雨がちらついていた為、時間をずらし雨上がりの屋前に調査スタート。武蔵台公園に隣接する雑木林のトウネズミモチの花芽にムクドリが集中して群がり、地面に落ちた花芽も懸命に啄んでおり、全部で60羽ほどの大群であった。ウグイスの鳴き声が聞かれる一方でガビチョウがウグイスの鳴きまねを盛んにしていた。シジュウカラ、エナガが鬱蒼と色濃くなってきた木々を行き交っていた。
7	今日は真夏日が予想されており、久しぶりに暑さが戻ってきた。鳥も、暑さを避けるためか、体力消耗を避けるためか、あまり飛び回らず、飛んでいるヒヨドリやカラスも鳴かずに飛んでいるものが目立った。そんな中、ガビチョウの鳴声が煩いくらい聞こえ、ウグイスの囀りも数か所から聞こえた。オナガが枝に止まって、青虫を盛んに食べていた。
8	空を覆う緑が日差しを受け止めて、公園内は数度気温が低く、蝉の音が響き渡っていた。主な鳥はハシブトガラスとハシボソガラスで、未熟なミズキの実を啄んでは落とすことを繰り返していた。西の坂を振り返るとオナガの声と共に、数羽の小集団が現れ、口移して餌をもらうシーンを目にした。雛鳥を含む家族連れのような様子。鳥との出会いがごくごく少ない、盛夏ならではの1日でした。
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

注1: 表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。

外来種

注2:名称欄記号は、2023年度東京都レッドデータ、北多摩の категория 表示。

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カラハト		5	5	2	9								
カビチヨウ		3	2	5	3	1							
ソウシチヨウ													
ホンセイインコ													

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストの категория 表示を行った。 категория 表示の条件を以下に示す。

2023年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

категория 名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外	○	前回2010年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布	・	主要な生息地でないという理由から対象外とされた種